

作成日：2010年9月17日
最新改訂日：2024年2月29日

安全データシート (SDS)

1. 化学物質等及び会社情報

1.1 化学物質等の名称

製品名： 接触液 nd=1.75~1.78
一般名： 接触液（屈折液）

1.2 会社情報

会社名： 株式会社島津デバイス製造
住所： 〒399-2563 長野県飯田市時又 250
電話番号： 0265-26-9121
Fax 番号： 0265-26-9120
緊急時の連絡先： 0265-26-9121

1.3 推奨用途 ガラス・結晶などの品質検査

2. 危険有害性の要約

2.1 GHS 分類結果

物理化学的危険性	分類されない
可燃性固体：	区分 2 ^{注1)}
注1) 硫黄（粉末）	
健康に対する有害性	
皮膚腐食性／刺激性：	区分 2 ^{注2)}
注2) ヨウ化メチレン	
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：	区分 2A ^{注3)}
注3) ヨウ化メチレン	
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）：	区分 1 ^{注4)}
注4) 硫黄（粉末）	
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）：	区分 2 ^{注5)}
注5) 硫黄（粉末）	
環境に対する有害性	分類されない

2.2 GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語： 危険
 危険有害性情報： H315 - 皮膚刺激
 H319 - 強い眼刺激
 H370 - 臓器の障害
 H373 - 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ

注意書き
 [安全対策]: 取扱後は顔や手など、ばく露した皮膚をよく洗うこと。
 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
 この製品を使用するとき、飲食又は喫煙をしないこと。
 [応急措置]: 皮膚に付着した場合：多量の水と洗剤で洗うこと。
 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当を受けること。
 汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトを装着していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 目の刺激が続く場合：医師の診察／手当を受けること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
 気分が悪いときは、医師の診察／手当を受けること。
 [保管]: 施錠して保管すること。
 [廃棄]: 内容物／容器を承認された廃棄物処理場にて廃棄すること。

この製品は成分の情報から可燃性があると考えられ、火気や静電気等の引火には注意すること。

3. 組成及び成分情報

3.1 化学物質・混合物の区別 混合物

3.2 化学名又は一般名 接触液（屈折液）

3.3 成分情報

化学名または一般名	CAS 番号	官報公示整理番号	濃度または濃度範囲 (%)
ヨウ化メチレン	75-11-6	2-43	90-97.5
硫黄（粉末）	7704-34-9	—	2.5-10

3.4 GHS 分類に寄与する危険有害成分 ヨウ化メチレン、硫黄

3.5 製品の危険有害性に寄与しない微量成分

該当なし

4. 応急措置

4.1 暴露経路による応急措置

吸入した場合：	新鮮な空気のある場所に移動すること。 症状が続く場合には、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合：	大量の水で十分に洗い流すこと。
目に入った場合：	水で15分以上注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに眼科医の手当てを受けること。
飲み込んだ場合：	水で口をすすぎ、直ちに医師の診断を受けること。

4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

眼への刺激性、呼吸器への刺激のおそれ、眠気やめまいのおそれ、気道の障害のおそれ

4.3 応急措置をする者の保護に必要な注意事項

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。

5. 火災時の措置

5.1 適切な消火剤

水噴霧、泡消火薬剤、粉末消火薬剤、二酸化炭素、乾燥砂を使用する。

5.2 使ってはならない消火剤

火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。

5.3 火災時の特有の危険有害性

刺激性または毒性の蒸気が発生する恐れがある。

5.4 特有の消火方法

消火活動は風上から行う。
火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火後も容器を十分に冷却する。

5.5 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業の際は、適切な保護具や耐火服を着用する。

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

6.2 環境に対する注意事項

周辺環境に影響がある可能性があるため、高濃度の製品の環境中への流出を避ける。

6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

危険でなければ漏れを止める。

6.4 二次災害の防止策

取扱いや保管場所の近傍での飲食、喫煙の禁止。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 取扱い

技術的対策： 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。
使用時に容器内で硫黄成分が固化している場合、容器を常温で温めて硫黄成分が溶けたのを確認した後に使用すること。

安全取扱い注意事項： 取扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

7.2 保管

技術的対策： 保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。

混触禁止物質： 強酸化剤

保管条件： 強酸化剤から離しておく。
冷暗所に密閉して保管する。
加熱を避け、直射日光が当たらない場所に保管する。

容器包装材料： 破損や漏れの無い密閉可能な容器（ガラスなど）を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

8.1 許容濃度（暴露限界値、生物学的ばく露指標）

ヨウ化メチレン

ACGIH TLV-TWA (2009) 設定されていない

日本産業衛生学会 (2009) 設定されていない

硫黄

ACGIH TLV-TWA (2009) 設定されていない

日本産業衛生学会 (2009) 設定されていない

8.2 設備対策

高温下や、蒸気が発生する場合は換気装置を使用する。

8.3 保護具

呼吸器の保護具： 蒸気が発生する場合、必要に応じて保護マスクや呼吸用保護具を着用する。

手の保護具： 手に接触する恐れがある場合、保護手袋を着用する。

眼の保護具： 眼に入る恐れがある場合、保護眼鏡やゴーグルを着用する。

皮膚及び身体の保護具： 必要に応じて保護衣、保護エプロン、保護長靴等を着用する。

8.4 特別な注意事項

取扱い後はよく手を洗うこと。
取扱い場所の近傍では飲食、喫煙の禁止。
汚染された衣類を再使用する場合は洗濯すること。

9. 物理的及び化学的性質

9.1 物理的及び化学的性質の基本情報

物理状態：	液体
色：	うすい黄色～黄褐色
臭い：	特異臭
沸点又は初留点及び沸騰範囲：	情報なし
可燃性：	情報なし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界：	情報なし
引火点：	情報なし
自然発火点：	情報なし
分解温度：	情報なし
pH：	情報なし
動粘性率：	情報なし
蒸気圧：	情報なし
密度及び／又は相対密度：	情報なし
相対ガス密度：	情報なし
粒子特性：	情報なし

9.2 その他の情報

情報なし

10. 安定性及び反応性

10.1 反応性

情報なし

10.2 化学的安定性

通常の手扱い条件下では安定である。

10.3 危険有害反応可能性

通常の手扱い条件下では危険有害反応を起こさない。

10.4 避けるべき条件

高温下や高濃度の蒸気が発生する場合、換気装置を使用する。
直射日光を避け、冷暗所に保管する。

10.5 混触危険物質

強酸化剤との接触

10.6 危険有害な分解生成物

情報なし

11. 有害性情報

11.1 製品の有害性情報

急性毒性:	情報なし
皮膚腐食性／刺激性:	情報なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性:	情報なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性:	情報なし
生殖細胞変異原性:	情報なし
発がん性:	情報なし
生殖毒性:	情報なし
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）:	情報なし
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）:	情報なし
誤えん有害性:	情報なし

11.2 成分の有害性情報

ヨウ化メチレン

急性毒性:	皮下注射マウス LD ₅₀ = 830 mg/kg
皮膚腐食性／刺激性:	情報なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性:	眼に入ると、眼が刺激され、炎症を起こすことがある。
呼吸器感作性又は皮膚感作性:	情報なし
生殖細胞変異原性:	情報なし
発がん性:	情報なし
生殖毒性:	情報なし
吸引性呼吸器有害性:	情報なし
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）:	高濃度の蒸気は麻酔作用があり、蒸気を吸入すると鼻、喉が刺激され、頭痛、めまい、悪心などを起こす。
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）:	情報なし
誤えん有害性:	情報なし

硫黄（粉末）

急性毒性:	経口ラット LD ₅₀ > 5,000 mg/kg 経口ウサギ LD ₅₀ = 2,500 mg/kg 吸入（4時間）LC ₅₀ > 9.23 mg/L 経皮ラット LD ₅₀ > 2,000 mg/kg
皮膚腐食性／刺激性:	情報なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性:	眼、皮膚、気道を刺激する。
呼吸器感作性又は皮膚感作性:	情報なし
生殖細胞変異原性:	（ <i>in vitro</i> ）サルモネラ菌を用いた AMES 試験で陰性
発がん性:	情報なし
生殖毒性:	情報なし
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）:	この物質の粉末を吸入すると、鼻、気道の炎症を起こすことがある。

特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）：

反復または長期の皮膚への接触により、皮膚炎を起こすことがある。
気道に影響を与え、慢性気管支炎を起こすことがある。
マウスに硫黄を 28 日間経口投与した試験で、用量相関的に皮膚の損傷がみられた。
ウサギに硫黄を 90 日間経口投与した試験で、肝臓グリコーゲン、副腎への影響がみられた。

誤えん有害性: 情報なし

12. 環境影響情報

12.1 製品の環境影響情報

生態毒性: 情報なし
残留性・分解性: 情報なし
生殖蓄積性: 情報なし
土壌中の移動性: 情報なし
オゾン層への有害性: 情報なし

12.2 成分の環境影響情報

ヨウ化メチレン

生態毒性: 情報なし
残留性・分解性: 情報なし
生殖蓄積性: 情報なし
土壌中の移動性: 情報なし
オゾン層への有害性: 情報なし

硫黄（粉末）

生態毒性（急性）: コロイド状になると、水生生物に有毒
魚類（カダヤシ）96 時間 $LC_{50} > 1,000$ mg/L
コロイド状硫黄のキンギョに対する致死量は 3.5-25 時間で
1,600mg/L
残留性・分解性: 微生物などによる分解性なし
生殖蓄積性: 情報なし
土壌中の移動性: 情報なし
オゾン層への有害性: 情報なし

13. 廃棄上の注意

13.1 残余廃棄物

廃棄は地域、国、現地の適切な法律、規制に則る必要がある。

13.2 汚染容器および包装

廃棄は地域、国、現地の適切な法律、規制に則る必要がある。

14. 輸送上の注意

14.1 輸送又は輸送手段に関する特別な安全対策

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

14.2 国内規制

非該当

15. 適用法令

- ① 消防法： 非該当
- ② 毒物及び劇物取締法：
非該当
- ③ 労働安全衛生法：
名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 57 条、施行令第 18 条）
名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9） No.606
- ④ 船舶安全法（危規則）：
非該当
- ⑤ 航空法： 非該当
- ⑥ 化学物質排出把握管理促進法（PRTR 法）：
非該当
- ⑦ 海洋汚染防止法：
硫黄成分：有害液体物質（Z 類物質）
- ⑧ 輸出貿易管理令：非該当

16. その他の情報

参考文献： ECOTOX: Aquatic Report (2010)
International Chemical Safety Cards (ICSC) (2003)
International Uniform Chemical Information Database (IUCLID) (2000)
JIS Z 7252 (2019)
JIS Z 7253 (2019)
試薬メーカー提供資料

【注意】本 SDS は作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。新たな情報を入手した場合には追加又は訂正されることがあります。また、注意事項等は通常の実施を前提としたものであるため、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。